

第8回島田市総合計画審議会 会議要録

1 日時

令和4年1月24日（月）19：00～20：19

2 場所

島田市役所 4階 第三委員会室南・北

3 出席者

委員：池上委員（会長）、村田委員（副会長）、磯崎委員、大池委員、河村委員、北川委員、クラーク委員、鈴木(史)委員、鈴木(将)委員、中根委員、萩原委員、原委員、松本委員、渡瀬委員

市側：牛尾副市長

事務局：今村市長戦略部長、中村戦略推進課長、興津係長、中村主査、永田主事、酒井主事、榊原主事

傍聴者 1人

4 内容

（開会）

（会長あいさつ）

- ・私たちのこの会は今日が最後となる。パブリック・コメントを終えて、無事市長へ答申する内容を皆さんと確認できることを嬉しく思う。
- ・振り返ると、前は11月だったので2か月ぶりということになる。前回かなり細かなところも含めてご確認いただいた。今日、総合計画そのものについては、その後の変更点を確認する程度となる。
- ・最後に皆さんから、この総合計画を考える会に参加して、感想や今後の島田市に対する願いのようなものでも結構だが、一言ずついただきたいと思うので、考えておいていただければと思う。

（報告）

会 長：今日の次第を改めてご確認いただきたい。まず報告があって、パブリック・コメントの実施結果及び議会の皆さんからのご意見やご提案、それについてどのような内容だったか、あるいはどのような対応をしたかということをご報告いただく。

その後議題に入り、答申案について説明をいただく。それを巡っての意見交換、最後に委員の皆様から一言ずついただくということになる。

その他で、2月4日に予定されている答申書の手交式について、事務局からお話をいただく。

それでは、次第の3、報告(1)について、事務局から説明をお願いしたい。

(1) パブリック・コメント実施結果及び島田市議会からの意見・提案事項等への対応について

資料1及び資料2に基づき、榊原主事より説明

会 長：報告の内容については、前回11月の審議会での意見がどう反映されたか。それから12月～1月頭に行われたパブリック・コメント、結果的にはご意見がなかった。12月の忙しい時期で、また正月を挟んでこれをじっくり読み込む人はなかなかいないのではと思われるので仕方なかったなと思う一方、残念な気持ちでもある。

そして、市議会からは意見を96件いただいて、いくつか具体的に中身を変えたり、順番を変えたりしたところがあったという説明であった。

今の説明の部分を中心に、ご不明な点等あれば発言をお願いしたい。

【質疑応答】

A 委員：244ページの市議会特別委員会からの意見の反映について、反映した意見はこの資料に載っているが、反映できない意見やその他の意見について、どのような声があったのかお聞きしたい。

会 長：数が多いので全部列挙は難しいかもしれないが、主なものをいくつかあげていただければイメージを共有できると思う。

事務局：まず、反映できなかったご意見については、めざそう値を修正してほしいというご意見が多くあった。例えば政策分野1の福祉の分野で、障害者支援に係る部分では、市民全体の満足度や重要度ではなく当事者の方たちの満足度にはできないだろうかというご意見があった。

ほかには、政策分野7において、職員提案で具体的に事務改善ができた成果を載せたらどうかというご意見があったが、少々事務的すぎるということで掲載を見送っている。

また、その他の意見については、計画を修正してほしいというものではなく、行政全体に対するご意見というものである。

具体的には、この総合計画を作るにあたって毎年市民意識調査を行っている。市民アンケートを他の部署でも何件か行っているので、そういったアンケートを共有して、共通して使うことを進めてほしいというご意見があった。

また、小中学校の先生方が忙しいので、先生方をサポートするボランティアの方を増やしてほしいなどのご意見もあった。

B 委員：市議会からの意見への対応で修正した部分の中で、修正前の方が良かった、なぜ修正してしまったのだろうと思うところが2か所ある。

資料1の97ページ、「チャレンジする商店主を支援します」で、めざそう値が「相談件数 500件」に変わっている。修正前は、「中心市街地の空き家・空き店舗へ

の出店支援件数」だった。

産業支援センターの相談件数は、月100件、年間1,200件ほど毎年出ている。それ以上は受けられないし、増えないというもの。現状マックスでやっている中で、その数を目標値にするのは違和感がある。

もう一つ、136ページの上下水道のめざそう値で、「水道事業における老朽化施設更新経費 4億円以上」とある。意図は更新に係る経費をたくさん確保するようにしようということだと思うが、4億円以上の工事をやりましょうということが少々違うのではないかという印象がある。

会長：すでに一杯一杯のキャパでやっているところに、更に増やそうというのは果たして現実的なのかということ。また、3.5億円を4億円以上にしようとしているが、湯水のごとく財源が湧いて出る時代であればともかく、今まさに縮減をうたっている計画の中で、実績として進むこと自体は悪くないが、そのような目標の立て方について、少々方向性が違うのではないかというご指摘である。

事務局：1点目について、市議会からのご指摘として、3-3-1「中心市街地のにぎわいづくりを進めます」のめざそう値は、歩行者数よりも、空き家や空き店舗の出店支援件数の方が良いのではないかというご意見があった。それに応じる形で、3-3-3にあった空き家・空き店舗のめざそう値を3-3-1に移動した。その中で、3-3-3「チャレンジする商店主を支援します」の新しいめざそう値を考え、産業支援センターの支援としたところである。

136ページ、6-2-4については、水道事業は市民の皆様からいただく水道使用料で運営をしている。また、施設の老朽化が進み始めているので、計画的な施設の更新が必要な状況となっている。その中で、4億円以上の投資をし続けるということが水道事業の一つのミッションとなっているので、それをめざそう値にしたもの。

会長：4億円以上の投資をするのがミッションとなっているというのは、市役所内の担当部局によって決められているミッションと理解してよいか。

事務局：そのとおり、個別の計画の中で立てられている。

会長：そうすると、水道の収入を積算の根拠としているという前提でよいか。

事務局：そのようになる。

会長：全体としては縮減が今回のキーワードだが、財源がきちんとあって、その財源の回し方として、老朽化している水道を直すのに4億円以上使うということが当該部局のミッションとしてあるので、それを反映したということだが、いかがか。

B委員：安定的な運営を図るというのは、どちらかというと収入の安定的な確保などと思われる。要するにこの「老朽化施設の更新経費」というめざそう値が、「安定的な運営」のめざそう値として相応しいのかという疑問がある。これしかないということであればこれで結構である。

会長：ここにきて何か新しい数値を入れようということはタイミング的に少し難しいかもしれないが、この指標を巡る今の議論は本質的に重要なことだと感じている。

る。個別の議論の中で、これでいいよねという話と、市全体としてどのような構
えでこれから先の時代に向かっていくかを考えたとき、市民から見て若干そこ
に違和感を覚える部分があるという意見だにご理解いただければと思う。

(議題)

(1) 答申案について

資料3に基づき、中村主査より説明

会 長：この答申書をもとに、私たちの2年間にわたる議論をお伝えする。その際に、
どのような内容を特出しして市長にアピールするかということ。それについて
鑑文、特に3枚目にある別紙2の文章を見て、皆さんからご意見をいただきたい。
手交式では意見交換の場が設けられている。この答申案をもとに、ご出席される
皆さんと市長との間で意見交換がなされるので、このことは市長に直接伝えたい
ということがあれば、この中に書き込んでおく話題になりやすいと理解し
ている。そういう観点でご確認をお願いしたい。

【質疑応答】

C 委 員：別紙2について内容的には良いと思うが、順番的には2番目の「市民一人ひと
りが互いを認め…」が最初に来た方がいいかと思う。デジタルトランスフォー
メーションについては中盤か後かで、縮充についてももう少し順番を上げては
どうか。

会 長：内容の変更というよりも、順番について再考してみてもどうだろうかというこ
と。後期基本計画をベースとしてその順番に沿って配置をすればいいのではな
いかというご提案かと思う。改めてどのような順番とするかは事務局に考えて
いただくようお願いする。

D 委 員：1ページ目の2番、「島田市が持つ様々な…」のところで、「島田市全体」とあ
る。別紙2の「中山間地域におけるまちづくりとのバランスにも十分に配慮し」
ということが「全体」という意味だと思うが、その「島田市」を「市内」として
はいかがか。

会 長：ここはまず事務局に、「島田市全体」と書いた意図をご説明いただきたい。

事 務 局：委員がおっしゃったとおり、コンパクト・プラス・ネットワークの話が出る中
で、中山間地域も一体となって島田市全体として、という意味である。

A 委 員：「島田市全体」でもいいかなと思っているが、「市内」を入れると、その前に「島
田市が持つ様々な…」とあるので、「島田市」を省いて、ここでは「市内全体が」
という文章に変えてはいかがか。

会 長：「島田市」という言葉がダブるので、「島田市」を取って「市内全体」はどうかと
いう提案である。今の意見を聞いて思ったが、この2番で言っているのは地理的

な区分を念頭においているので、「全体」という言葉がいいのか、「市内全域」のような言葉がいいのか。ニュアンスの問題だが、地理的なものを含めるのであれば「全域」の方が座りはいいかなと思う。事務局はいかがか。

事務局：「島田市内全体」、「市内全体」、「市内全域」、元々の「島田市全体」、この中から、持ち帰って最もいいものを選ばせていただくということでよろしいか。

D 委員：この別紙2を見る前、「島田市全体」の「全体」が、地域ではなくて、産業や学校などという意味に捉えていた。そこがどちらなのかという意味で先ほどの質問をした。

人的資源とか産業的資源、産業別の「全体」という意味で捉えたところがあったので、そのあたりを考えてもいいと思う。

事務局：先ほど持ち帰りとして申し上げたが、今委員が表現してくださったように、地域だけではないので、「市内全体」という表現にさせていただきたいと思う。

会長：土地、地域だけでない様々な分野、セクターを含めるので、「全体」という言葉の方がいいということである。

A 委員：市長が色々ところで「縮充」という言葉を使われているが、縮は「縮む」というイメージがある。確かに現状は人口減少などがあるが、これから発展していく中で、何か違う表現はないかなと思うがいかがか。

会長：本質的な問題提起をいただいた。縮、縮まるという言葉が持つネガティブなイメージを何とか変えていけないだろうか、他の適切な言葉がないだろうかという話である。もっともなご指摘だと思う。

その一方で、市長が「縮充」という言葉をよく使っているのだとすれば、やはり市長のイメージする「縮充」という言葉が、計画の中で重要な位置にいる必要があるという気もする。

まず事務局にお伺いするが、「縮充」という言葉を考えたときに、その意味するところが、他の言葉の案、代替案があったのかどうか。

誤解がないように言うが、今この場で「縮充」をひっくり返そうとして質問をしているわけではない。どのような議論があって「縮充」という言葉が選ばれたかを改めて教えていただきたい。

事務局：今回の計画で載せている「縮充」という言葉は、4年前の第2次総合計画前期計画を作るときに市長が打ち出した考え方である。人口減少や財政が小さくなっていく中でも、選択と集中や市民の方との協働で豊かな充実した生活をつくっていくという概念である。

今、会長からご質問があった「縮充」を考えるにあたって他の言葉は無かったのかについては把握していない。

会長：「拡充」という言葉がある。「拡充」という言葉に対して、拡大の反対が縮小。しかし充実という点は変わらないという意味で、「縮充」という言葉が出てくると私は理解している。おそらく皆さんも同様の理解だと思う。

前期の基本計画のときに、すでに市長のコンセプトとして「縮充」という言葉が

出てきている。これは第2次の後期であり、第3次で新しく作るというものではないので、「縮充」というコンセプトを踏襲したというのが今の事務局の説明だったと理解している。

他には今の資料3についていかがか。それでは、今日ここでの議論も踏まえて、市長に手交する際に話ができればと思う。

審議はここまでになるが、冒頭にも申し上げたとおり皆さんから一言ずつ、この総合計画を作る審議会の委員としてどのようなことを考えたか、こういうことを実現に向けて頑張してほしいというような一言をいただきたい。

E 委員：今まで知らなかったことや、経験不足で知識が足りていなかった部分もあったかと思うが、この会議に参加して色々勉強させていただいた。コロナ禍で社会情勢的にも変化が大きくあった中で、それに対応した計画となり、すぐためになるのではないかと思う。参加できてよかった。

個人的にはDXに期待している。それによって「縮充」もあるが、縮小できる手間や、確保できる資源・財源などがたくさんあると思うので、それを他に充てていただき、より良い魅力的な島田市になっていくと嬉しく思う。

A 委員：総合計画と聞くと何となく身近に感じなくて、果たして自分がどこまでついていけるかなと思っていたが、だんだんとこれからの島田市を考える思考ができてきた。

これは4年間の計画だが、もう少し長いスパンの計画、例えば以前にも言った都市計画の街並みをきれいにするなど。すぐにできる問題ではないが、そういった所も少し入れていただければなと思う。この会議に参加させていただき本当に良かったなと思っている。

F 委員：デジタルトランスフォーメーションについて、仕事を離れているので、スマホやパソコンを何とか使っているが、使いこなせているという状況ではない。これからそれがどんどん進んでいくと、例えば広報はまだ今にデジタルで来るのだろうなど。操作の仕方を熟知していないと取り残されてしまうという不安を感じている。そのあたりを解決しないと進まないのではないかという気がしている。

これからの時代、どのような時代がくるのだろうと非常に興味を持っている。その中で、やはり市民との対話を大事にしてほしい。行政だけが一生懸命やってもいいまちづくりはできない時代がもう来ってしまうのだろう。市民と事業者と行政が一緒になって、協力してやっていかななくてはならない時代がくるだろうと思っている。意識してそれをやっていってほしい。

B 委員：かつて、自分は市役所で原案を作る側だった。今回、このような外から見せていただく場面をいただいて、行政の中で作る人間と、市民の考え方には少し

ギャップがあると感じた。

4年間という計画なので、市役所にいる側は、できることを計画に書く。でも市民の皆さんは、長いスパンでこうなったらいいなという計画を望んでいる。その差を皆さんの意見を聞きながら感じ、非常に参考になった。

コロナで世の中の動きが大きく変わってしまった。このコロナが今後どうなっていくかまだ不透明な中ではあるが、ただ一つ、DXだけはどうしても進む。産業界は特にデジタル化が遅れていると言われてるので、今度は自分の仕事柄、少しでもそうしたことを進めながら、計画を達成できるように努力をしていきたい。

G 委員：この審議会に参加させていただいたことを皆さんに感謝したい。貢献したことは少なかったかもしれないが、本当に勉強になった。島田市について勉強することができた上に、計画の作り方も面白く、今後の役に立つと思っている。

将来、島田市を盛り上げる機会に参加していきたいと思っているので、これからもよろしくお願ひしたい。

H 委員：事務局の皆さんの分かりやすい計画を作ろうという思いが非常に伝わってきた。特に「未来に向けて」や「三大戦略」、「がんばるポイント」、「地域別の方向性」など。市民の方と一緒に作っていく、非常に熱量のある良い計画になっていると思う。

ただ最後に残念だったのは、パブリック・コメントの意見が1件もなかったこと。計画のできあがりも大切だが、やはりその計画の策定過程、作るプロセスが非常に大切だと思う。市町村の規模によって違うとは思いますが、市民の方と一緒に作っていく計画なので、パブリック・コメントが0というのは少々いかなものか。年末年始の時期ではあったが、色んな手段を通じてやっても良かったのでは。

計画を作って終わりではないので、でき上がったものをなるべく分かりやすく市民の方に説明して、実施の過程でも色々と参加してご意見をもらえたらなと思う。

C 委員：非常に貴重な経験をさせていただいた。今回の計画では、1年目は事務局側だったので、皆さんに示すのにどのような形がいいか、特に、どのようなめざそう値なら皆さんに分かっていただけるかと考えながら、事務局としてやってきた。2年目になりこちらの立場になって、自分が気付かない貴重な意見を皆さんからたくさんいただいて、新しい発見があった。

今回の計画で、私が重要と思っていたことが、市民一人ひとりの多様性。また、「市民とともに」という言葉が入っていることがすごく印象的である。

まちづくりにおいて、やはり主役は市民だと思っているので、このような言葉が入ったこの計画、今後の4年間を非常に楽しみにしている。

私も市内にある事業所の職員として、今回の計画を見守っていきたいと思うし、参加していきたいと思う。

- I 委員：総合計画というものは、理想や想いを実現するための現実の取り組みをこの計画に落としとしていくものだと思う。この計画が実現したら、本当にいいまち、いい市になる。事務局の皆さんが本当に真剣に取り組んで来られてこの計画ができあがってきたのだと感じた。とても良い計画ができたのではないかなと思う。
- J 委員：ここにいらっしゃる方々が色々な立場から発言されていて、勉強になることが多かった。私は島田生まれの島田育ちで、大好きな島田市が本当にいいまちになっていくことを心から望んでいる。
- この策定に当たって、色々と発言したことに対して、事務局の皆さんがその発言を受け止めて、次の機会にはきちんと対応していることがすごくよく分かった。この厚い労力のかかった総合計画を、どのように市民一人ひとりに提示して具現化していくのかが大きな課題になるのかなと思う。明日からは自分も市民の一人としてどのようにしていったらいいかを考え、活動していけたらいいかなと思う。
- K 委員：このような話し合いに参加させていただいて、驚くことばかりだった。出された意見を事務局がすぐ受け止めて、新しいものをまた作り上げる。本当にすごい力をお持ちの方たちなのだなと改めて感じた。
- 行政の方だけではなくて、ワークショップを開いて市民の方に呼びかけ、アンケートをとってそこからまた方向性を見て、会議を開いて、大勢の方の考えを取り入れてやっていくのが、島田市の素晴らしいところだと感じた。
- これからの課題は、これだけの厚い内容を果たして市民の方がどれだけ受け止めてくれるのか。前期の内容についても初めて知ったことがたくさんあるので、これだけ素晴らしい内容を多くの方にきちんと受け止めていただくことがいちばんの課題ではないかなと思う。これからまた、協力できることは自分なりにやっていきたい。
- D 委員：今までは農業を中心に島田市内を見ていた中で、今回色々な方がそれぞれの立場で島田市をどう見ているのか大変よく分かって、すごく勉強になった。
- そして池上会長がすごく司会を上手に進行されて、一人ひとりの意見を導き出し、意見を言わせてくれた。はっきりした問題提起を提示しながら分かりやすい進行をしていただいたので、すごく発言しやすい会議であったと思う。
- この総合計画をこれから推進するに当たって、先ほど皆さんが言われた「実行が大事」ということについて、推進するためのそれぞれの立場の人材育成を増やしていければ、必ずこの計画は実行していくのではないかと思った。
- 島田市がどうなっていくのかを楽しみに、一市民として過ごしていきたい。

- L 委員：このような素晴らしい会議に参加させていただいて本当にありがたく思う。
島田市に移住してまず市役所に入ったとき、雰囲気がよく好きで、島田市って素敵なまちだなと思った。この会議に参加させていただいて、島田市がもっと好きになったので、このことをここにいる人たちだけではなくて、もっと色々な人に伝えていきたいと思っている。
デジタルについて、今後、メタバースや仮想現実の世界が来ると思う。仮想現実の世界だったらしコロナのような状況になったとしても影響が少ないので、島田市の特産品をメタバースで買えたりするような機会があれば、もっと島田市が盛り上がるのではないかな。
- M 委員：4年後が本当に楽しみである。私もこの答申案に言いたいことや思ったことが書いてあった。やはり若い世代が今後キーパーソンになっていくのではないかな。次の審議会には、若い方たちがこの場に入って、意見が言えるような会になればと思っている。
経済界の方たちもこの中に入っていた方が、より島田の発展につながっていくと考える。また、学校関係の方もいれば、子どもはこれからの島田市を背負って立つ人たちなので、そういった意見もあつたらいいと思う。
池上会長のファシリテーターは非常に勉強になった。お疲れ様でした。
- 会長：今回この審議会のお話をいただいて、私も折に触れ島田に足を運ぶようにした。KADODE OOI GAWAや金谷の石畳、諏訪原城を歩いたりもした。少しだけだが、島田の当事者意識をもって、今回の答申案についてできる範囲のお手伝いをしたつもりである。
先ほどから私の進行について、お褒めの言葉をいただいて本当にありがたく思う。私ができることは、皆さんが発言しやすい環境を作っていくことと、そこで出てきた意見を事務局が回答しやすいように焦点化して、もう1回投げる、それだけである。事務局がその球を正面から受け止めて、返してくれたという真剣な姿勢にとても勇気を得た。だからこそ場合によっては辛辣な言葉を事務局にかけたりもした。その結果が今回の基本計画案なのかなと思う。
最近はこのような総合計画をコンサルタントに頼らないで、市の職員、特に若手中堅が、自前で考えて作るというところが増えている。とても良いことだと思う。バブルの頃、東京のコンサルタントが入ってきて、どこでも同じような計画を作っていた。ただそれは地域の個性を必ずしも活かしていないし、当事者目線ではないので、今一つピンとこないことが多かった。最近、地方はそれぞれの独自性を打ち出すことが、地方の魅力化、ひいては持続可能性につながっていくという認識ができて、市町の職員が頑張っていてチャレンジする傾向が出てきている。とても素晴らしいことだと思う。
愛にあふれた基本計画だと感じている。読んでいただくと分かるとおりに、文章も

かなり練っているし、レイアウトも分かりやすくなっている。ぱっと見て情報量としては同じでも、レイアウトが変わることで、ずっと入ってくる。

文字を書いて何もレイアウトを考えなくても、まとめたという言い訳はできるが、今回の事務局はそれに甘んじることなく、どうすれば見やすくなるのか、かなり細かく工夫をされている。今回の後期計画、すごく大きな進歩だと改めて皆さんと確認して感じた。

最終的には皆さんがおっしゃったように、計画を作ったというのはあくまでもスタート。ここからの進み具合についても、関わった人間として見ていきたいし、皆さんそれぞれのお立場で関わっていただければ、今回、会長を務める立場としてはとても嬉しく思う。

会 長：今、皆様からいただいたコメントや、今回出された意見を踏まえて事務局と最終調整を行っていきたい。その最終調整については事務局と私に一任していただいてよろしいか。

では、今回の議論を踏まえて、最終的な内容を固めていきたい。

(その他)

(1) 答申書手交式について

資料4に基づき、中村主査より説明、出席者確認

会 長：出席できる委員の皆様はぜひよろしくお願ひしたい。

なお、前回の記録写真を見るときっちりとした服装をしているので、あらかじめ情報共有をしておく。

事 務 局：今不参加とした方も、当日飛び入り参加可能である。

会 長：最後に部長と副市長からも一言ずついただければと思う。

市長戦略部長：今年度人事異動で引き継ぎを受け、途中からの参加となったが、ワークショップ等にも参加して、自分たちが今まで考えてきたのは狭い世界だったということを感じていた。

事務局のことも、皆さんから褒めていただいて本当にありがたいと思う。

一つひとつのことを一生懸命考え、課の中で長い時間をかけて考え「がんばるポイント」や「3大戦略」も生み出してきたので、これを行政の今後の仕事の中に活かしていきたいと思っている。

牛尾副市長：長期にわたり熱心にご議論いただき本当にありがたいと思っている。

このような計画を作るときに、色々な立場の方から多くの意見をいただくことが大切だと日々感じている。

総合計画は市の最も上位の計画で遠い存在になりがちだが、こうした経過を踏

まえてできたことを考えると、総合計画が市民に近い存在になったと感じている。心から感謝申し上げます。

会 長：私たちのこの審議会は、2回目にグループディスカッションの機会を持った。普通、このような会ではグループディスカッションを行わないが、ディスカッションの機会を持てたことで、皆さんがすごく当事者意識を強くされたと感じている。もしコロナがこのような状況でなければ、ある程度固まってきた段階でもグループディスカッションができたらよかったと少し思っている。

第3次を作るときの事務局への引継ぎ事項として、私からの最後の言葉になるが、要所要所でグループディスカッションのような形を入れることで、委員の皆さんの声が非常に反映されやすくなる。皆さんも発言しやすい面があるので、ぜひ方法論として考えていただければと思う。

最後に一つ皆さんにお願いがある。この案をまとめた事務局に、拍手をしたいと思う。ありがとうございました。

事務局からもこれまでのご審議に対するお礼を申し上げ、会議を終了した。

以上

20：19会議終了